

# 注意事項

令和 7年 8月 25日

## 1. 入国について

日本国籍を持つ方が観光等でカタールに短期間滞在される場合、カタール到着後ハマド国際空港における入国審査時に30日間の滞在許可が無料で取得できます。カタール入国に関する詳細情報につきましては、在日本カタール大使館等の管轄機関にてご確認ください。

在日本カタール国大使館 (The Embassy of the State of Qatar in Japan)

〒106-0046 東京都港区元麻布2丁目3-28

電話 : 03-5475-0611/0613

HP : <https://tokyo.embassy.qa/en>

## 2. 保険

予期せぬトラブルや事故に備えて海外旅行保険へ加入されることを推奨します。加入される海外旅行保険の規定・補償内容を確認し、旅行中の活動内容がカバーされていることをご確認ください。カタールの医療は充実しておりますが、保険がなければ高額な請求をされる可能性がありますのでご留意ください。

## 3. 薬の持ち込みについて

日本国内で一般的に流通している処方箋や市販の薬は、原則として個人使用の範囲内であれば持ち込みは可能ですが、日本の規定とは異なる可能性もありますので、最終的なご確認は在日本カタール大使館にお問い合わせください。

## 4. カタールの法律と慣習

カタールはイスラム教国です。カタールの法律や慣習は日本とは大きく異なりますので、出発前にカタールの法律や慣習について理解を深め、敬意を持った行動をすることが求められます。モスクや祈禱室などの宗教的な場所においては特に行動や服装にお気を付けください。

露出の多い服装は避け、特に宗教的な場所、病院、博物館や政府関連施設を含む公共の場では、肩と膝が隠れた服装をご着用ください。ホテルのビーチやプールにおいては水着の着用が認められています。上記施設に関わらず、商業施設においても服装によっては入場を拒否される場合があります。

カタールでは、外交団地区や軍事施設、空港、政府機関庁舎、天然ガスプラント、治安関係機関、港湾施設等の重要施設を含む区域においては、当局の許可を得ない写真撮影は原則禁止されていて、治安当局は違反者に対して逮捕・勾留を含む厳しい姿勢で臨んでいます。例年、禁止場所を写真撮影したことにより旅行者等が警察官に拘束される事案が発生しています。カタール国内で写真撮影をされる際には、その場所が撮影禁止区域に指定されていないか、周囲に軍事施設等の重要施設が存在していないか等に十分にご注意ください。

カタールでは、写真を撮影されることについて保守的な人が多く、人物を撮影される際は十分注意が必要です。特にカタール人女性や他のアラブ人女性を無断で撮影することは、大きなトラブルの原因となります。仮に風景等を撮影する場合でも、そこに女性が居る時には、その女性を撮影しているかのような誤解を与える行為は注意が必要です。

日本では合法である物品（豚製品、アルコール、宗教的偶像、ポルノ関連等）であってもカタールでは違法にあたります。これらの物品をカタールに持ち込んだ際には厳しい罰則が科せられますのでご注意ください。また、**到着後のハマド国際空港において高性能機器を使用した厳格な荷物検査を実施**していますので、禁止物品を持ち込むことのないように十分ご注意ください。

カタールでは同性愛は違法です。また、性別、性的指向、意図に関係なく、公の場での親密な行動はトラブルになる可能性がありますのでご注意ください。

## 5. アルコールと薬物

カタールでは認可されたホテルのレストランやバーのみでアルコールが提供されます。飲酒可能な年齢は21歳以上で、**公共の場での飲酒は禁止**されております。また、**カタールへのアルコールの持ち込みも禁止**されており、**到着後のハマド国際空港において高性能機器を使用した厳格な荷物検査を実施**しています。空港免税店にてお酒を購入、持ち込みすることもできません。

麻薬の所持・使用も禁止されています。少量を所持している場合も厳しい刑罰が科されます。麻薬に関する犯罪は一切許容されることなく厳しい刑罰が科されます。少量であっても麻薬の所持、使用、密売、密輸に対する刑罰は、長期の監禁刑、多額の罰金、国外追放の対象となります。

## 6. 防犯対策

カタールの治安は非常に良好で、世界的に見ても犯罪率が低い国として知られていますが、スリや置き引きなどには油断せずに周囲に気を配りましょう。荷物は必ずご自身の視界内に保ち、混雑する場所では、前に抱えるようにして所持してください。犯罪者は、一瞬の隙を見逃しません。

**盗難・紛失の際には、盗難・紛失届を最寄りの警察署に届け、盗難・紛失証明書(Police Report)を入手してください。** 盗難・紛失証明書は旅券(パスポート)の発給や保険会社に請求する際に必要となります。万が一に備えて、旅券の画像やコピーを所持しておくことをお勧めします。

クレジットカードの盗難に遭った場合は、直ちにクレジットカード会社に連絡し手続きを止めてもらいましょう。

### ● 緊急にお金が必要なとき

以下の海外送金サービスを利用して日本から送金をしてもらうことができます。現金の受け取りには、旅券、送金番号と秘密の質問の答え（事前に送金者に要確認）が必要です。

★ ウェスタンユニオン (Western Union) 社 : <http://www.westernunion.co.jp/>

## 7. 帰国のための渡航書旅券等の発行

旅券(パスポート)を盗難・紛失した場合には、在カタール日本国大使館にて「帰国のための渡航書」を発給できますが、**申請には旅券用写真、戸籍謄本（または符号）も必要となりますので、万が一に備えて事前に準備されておくことをお勧めいたします。** 必要書類を下記よりご確認ください。

### ● 帰国のための渡航書の発給に必要な書類等

- ・紛失・盗難証明書（**Police Report** 警察が発行）
- ・紛失一般旅券等届出書 1通
- ・渡航書発給申請書 1通
- ・写真（縦4.5cm×横3.5cm） 2葉
- ・戸籍謄本または符号 1通  
(謄本は6か月、符号は3か月以内に発行されたもの)
- ・身元確認ができるもの（運転免許証等）
- ・帰国便のEチケットまたは日程表
- ・手数料：61カタール・リヤル（現金のみの取り扱い）

### ● 所要日数

- ・1~2営業日（必要書類が揃っている場合）

※ 必要書類が揃わない場合は2営業日以上かかる場合がございます。

※ 帰国のための渡航書は、旅券を紛失・盗難・焼失され、新規旅券の発給を待つことが出来ずに緊急に帰国する必要がある場合、また、直行便又はトランジットのみで日本に帰国する場合に限り発給可能です。第三国に滞在をすることは出来ません。

## 8. カタール国内での移動

カタールの道路事情は日本と比べ交通量も事故も多く、車線を守らない、ワインカーを出さずに突然曲がる、無理な割り込みや追越しを行う、横断歩道で止まらない、制限速度を大幅に超えて運転するなどの危険な行為が多く見受けられます。歩行者を含む事故が多数発生しておりますのでご注意ください。

タクシーやUberなどに乗車する際には、安全のため必ずシートベルトをご着用ください。

### ● 日本が発行する国外運転免許証について

カタールはジュネーブ条約締約国ではないため、**日本が発行する国外運転免許証ではカタールでの運転は不可**となっているにもかかわらず、車の貸出しに応じるレンタカー業者があります。事故の際には無免許運転とみなされ、高額な罰金や禁錮などの厳しい処罰を受ける可能性がありますので、公共交通機関をご利用ください。

## 9. その他 お役立ち情報

当館ホームページでは、カタールを訪れる旅行者の皆様に向けて お役立ち情報を掲載しております。下記リンクよりご参照ください。

[https://www.qa.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/ryokou.html](https://www.qa.emb-japan.go.jp/itpr_ja/ryokou.html)

### 在カタール日本国大使館 (The Embassy of Japan in the State of Qatar)

所在地：Building No.50, Street No.910, Zone No.66, New Diplomatic Area, Onaiza, Doha

電話番号：+974-4440-9000 (24時間対応、当館電話交換台は午前7:30 - 午後3:00)

Eメール：[eojqatar@dh.mofa.go.jp](mailto:eojqatar@dh.mofa.go.jp)

当館HP：<https://www.qa.emb-japan.go.jp>

開館時間：日曜～木曜 午前7:15 - 午後4:00

領事窓口：午前 7:30 – 午後 3:00